

国際教室担当者の「連絡協議会」の取り組み

—官制研修を契機とした担当者間のつながりと、活動の深化・拡大—

中村淳子（横浜市立義務教育学校霧が丘学園 前期課程）

平本千啓（横浜市立平戸台小学校）

1.実践の場の特徴

横浜の国際教室は外国につながる日本語指導の必要な児童生徒への支援のために対象児童生徒5名から担当者1名（20名から2名）配置基準で設置、平成29年度は全市小中義務教育学校487校中109校に設置された。全担当者対象の担当者会（業務連絡）が年4回、初めて国際教室を担当する担当者（以下初担）対象に市教委が行う指導者養成講座（以下官制研修）が年7回設定される。市教委が全担当者をA～Gの7班に編成し市教委が指定する各班研修担当校は授業公開を年1回行う。実践者・中村は本年度F班の研修担当である。

2.F班の課題と実践の目標

2.1 官制研修とF班の課題

F班は7区19校の小学校の担当者からなり、全員が校内担当者1名校、今年度初設置6校、16校の担当者が初担（3名初任）担当4年以上は1名だけであった。官制研修は他都市と比べても充実しているといえるが、中村の昨年度の経験から、F班の状況では以下の課題があると考えられた。

官制研修（指導者養成講座）内容	
5/24	開講・序論
6/28	日本語初期指導1
7/24	教科につながる日本語指導
7/27	DLA活用
9/27	JSLカリキュラム
10/25	日本語初期指導2
11/29	まとめ・ふりかえり

2.1.1. 初担者・初設置校・経験の浅い担当者の課題

具体の指導に関わる情報が年度当初に得られず、初担者は4月から基礎知識のないまま指導・運営を始めなければならない。また、講師対全受講者の一斉授業的な形式での専門性の強い研修内容は、初担者には情報過多で自校の課題解決や実践に生かしきれない。

2.1.2. 担当者一名校の課題

研修内容は主に指導に関する概論・基礎知識で、担当者一人校で負担の大きい運営事務や校内運用、具体の指導計画・教材研究等についての統一した見解や具体の情報は提供されにくい。

2.1.3. 情報共有と研修機会の課題

班編成は学級規模とエリアが考慮されたが、限られた研修時間内の情報交換では、指導・適応支援・校内運用等の話題が拡散し、必要な情報や解決の手掛かりを見だしにくい。班としての授業公開の指導案検討、指導・運営についての継続した研究機会が勤務時間内に公式に設定されず、自主研修を設定しても勤務条件等の関係で参加できない担当者も多い。

2.1.4. 専門性・指導力向上の課題

官制研修には指導経験の豊富な担当者はほとんど出席しないため、情報交換の中で専門性の高い助言や運営の情報が少なく課題の解決や指導力の向上につながりにくい。

2.2.F班の課題解決のための方策と目標

- 庁内メール等を活用し、担当者間の連携、具体の課題の整理と解決のための情報共有を図る。
- 官制研修の内容・知識を基盤に「日本語指導と教科指導」の実践を共有し指導力向上に努める。

3.具体的な実践の内容と過程

3.1.参加者名簿の作成と、庁内メールを利用した参加型ミーティング

名簿作成時に個々の状況や今の課題についてアンケートをおこなった。具体的選択肢の提示がニーズの吸い上げと情報共有のテーマを絞ることに有効だった。また「何がわからないかもわからない」状況から、自身の課題を整理し、情報交換の内容を焦点化していくことに大変役立った。

3.2.つながりと参加意識の変容

名簿とメールミーティングで顔の見える関係づくりを目指した。年度当初は課題の把握・必要な情報の提供は班内の経験者がファシリテートしていたが、夏以降、実践者・平本をはじめ教材紹介・研修のまとめ・発送などの活動・運営を支える協力者が増えた。官制研修時に、課題を共有したF班以外の担当者も参加した。班員が官制研修以外の機会に出会った市外担当者、地域支援者も加わり、外部研修の情報共有や取り組みの紹介が活発になった。参加者の増加・拡大に伴い12月に「連絡協議会」を立ち上げ、1月には他班の研修担当校担当者とも情報共有を行うことができた。実践資料の提供が増え、参加者が個々の強みや経験を生かし自発的に実践・情報を伝え合う対話的な協議が行われるようになった。

3.3.自主研修の実際

当初は担当経験者の実践報告と運営の質問が中心だったが、徐々に1単元1時間の補習・先行指導だけでなく、教科指導の専門性を生かし、学習事項の系統性を意識した指導と日本語指導の統合についての実践や検討を行うようになった。また官制研修の前後にミニ研修会を実施し、資料交換などを積極的に行った。11月の班の授業公開に関連し、在籍級参加と既習補充、学習事項の系統指導、日本語指導を統合した単元計画と実践について協議した。12月以降は、日本語指導講師の模擬授業、地域支援者との情報交換会などを行った。

4.成果と今後の課題

一方的な情報提供や1回限りの報告ではなく、情報を反映させた自校の運営資料や、研修を参考にした指導の実践・教材などを更に全体に共有する取り組みにより、参加者同士が発信・共有に積極的になり、主体的な学び合いが広がった。また、経験者は自分が初担者に何を支援できるか、初担者は自身の課題の自覚、自分のスキルや経験、専門性の何を自校での運営・指導に還元できるか、経験者を含む他校の担当者に提供し得るか、という意識で参加するようになった。F班だけの閉じた取り組みにしなかったことで、参加者の多様性や専門性の高い情報を生かすことができるようになってきた。官制研修で取り上げられない評価・学習状況調査・面談など、指導現場の運営課題をテーマに取り上げたことも、参加者の広がり、参加意欲の向上につながった。「NPO 日本語・教科学習支援ネット」との共催研修の検討、災害時の情報や通訳ボランティアとの連携に関わる課題への取り組みなど、活動は量・質ともに充実してきているが、地域支援者や日本語講師との連携や実践の積み重ねなどまだまだ発展の余地がある。また、参加者のほとんどが小学校担当者だったため、中学校との連携や課題の共有は十分ではない。地域支援者や日本語講師との連携や実践の積み重ねなどまだまだ発展の余地がある。本実践のつながりを全市に広げ、連携することで多岐にわたる課題の解決と支援指導の向上を目指したい。

アンケート集約より、様の **困り点**を挙げる (複数回答アリ)

<input type="checkbox"/> 日本語の指導指図がどうしたら?	✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 指導での学力や学習の進捗は?	✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 日本語講師との連携・共有は?	✓
<input type="checkbox"/> 保護者との連絡や支援は?	✓✓✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 取り出し時間の内容・渡し方	✓✓✓✓✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 取り出し単元の計画・教材	✓✓✓✓✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 在籍級の何の時期に取り出すか?	✓
<input type="checkbox"/> 道の取り出しの計画、進捗は?	✓✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 職員室でやりとりしていますか?	✓✓✓
<input type="checkbox"/> 問題行動対応の事例集ですか?	✓✓✓
<input type="checkbox"/> 指導教員が忙しい状況です	✓✓✓
<input type="checkbox"/> 国語以外の役割と両立が	✓
<input type="checkbox"/> 在籍級の教科・学習内容などを担任と連携・相談する機会が設定できません。	✓✓✓✓
<input type="checkbox"/> 生活言語は方言のみの学習支援は「ゆっくり練習」しているけれど一方・両方、カリキュラム)?	✓✓
<input type="checkbox"/> 教室で取らなかつた英文やテストの仕上げを頼まれ、取り出しの指導が計画的にできません。	✓✓

主な自主研修（勤務時間外）の内容	
4/26	・運営・指導の概要
6/2	・教科と日本語 ・算数；9年間を見越した学習事項の系統的な指導 ・取り出し指導の実際
10/25	・国語；説明文指導の単元計画 ・市外担当者との情報交換
11/16	F班授業公開（*勤務時間内）
12/15	・日本語ゼロ児の初期指導
1/31	・校内理解を深める発信・実践 ・個別支援級在籍児・発達特性のある子への支援